



UNISDR  
The United Nations Office for Disaster Risk Reduction



IRDR  
Integrated Research on Disaster Risk



東京大学  
THE UNIVERSITY OF TOKYO

防災・減災に関する国際研究のための東京会議  
Tokyo Conference on International Study for  
Disaster Risk Reduction and Resilience

－災害リスクの軽減と持続可能な開発を統合した新たな科学技術の構築へ向けて－

日時 2015年1月14日(水)～1月16日(金)

会場 東京大学本郷キャンパス 伊藤国際学術研究センター内 伊藤謝恩ホール

主催 日本学術会議、国連国際防災戦略事務局(UNISDR)、災害リスク統合研究(IRDR)  
東京大学 伊藤国際学術研究センター会議

#### 趣旨

自然由来のハザードがもたらす影響は世界中でますます顕著になるとともに、グローバル化、人口増、貧困、都市化と土地利用法等の人間由来の活動がハザードの影響を増大させている。被害の増加は先進国、発展途上国両方にみられ、科学技術や経済の成長、発展が必ずしも災害リスクの減少にはつながっていない。自然科学的にも社会科学にも、ハザードや災害に関する理解が深まっているのに、その成果が十分に活用されずに、損失は増加し続けているのはなぜかという疑問に、科学技術・学術は未だ答えを見出しえてはいない。

折しも、2015年3月には仙台にて第3回国連防災世界会議が開催され、次の10年間の世界の防災の根幹となるポスト兵庫行動枠組みが採択される見込みである。また2015年秋には持続可能開発目標(SDGs)に向けた議論がピークを迎える。この機を捉え、ポスト兵庫行動枠組みを具体化し、実行するための科学的、統合的戦略の議論を行い、SDGsへの防災目標の導入に向けて、防災・減災に関する科学技術が持続的な開発に対してはたす役割を明確にすることが肝要である。災害常襲国でありながら経済発展を成し遂げ、東日本大震災を受けて国土管理と社会のあり方の再構築に取り組む我が国には、IRDRと多様な分野との連携を通して、防災・減災と持続可能な開発の統合の具体例を示すことが期待されている。

国際科学会議(ICSU)が、国際社会科学会議(ISSC)、国連災害軽減統合戦略(UNISDR)と共同主催で開始した災害リスク統合研究(IRDR)は、災害の防止と軽減、災害対応に対する備えを向上させ、自然および人間由来の環境ハザードの影響や災害リスク要因の科学的知見の統合化と社会実装の実現へ向けた科学技術・学術の取り組みである。ハザードの種類や学問領域を超えてデータや情報を体系化、統合化し、これを科学者および

様々なステークホルダー間で共有し、知識や経験、考え方を相互に交換し、熟議を通して、災害リスクの軽減を目指す方法論の確立に取り組んでいる。これは、レジリエントな社会を構築し、人類を持続可能な開発へと導くために不可欠なステップでもあるとも考えられている。

そこで、第3回国連防災世界会議の開催前に、同会議に参加する世界の指導者とトップクラスの研究者を招聘して、防災・減災と持続可能な開発の双方を達成する防災・減災科学技術のあり方を以下の3つの観点から議論する。

第一に、自然災害による世界の被害は今後も増加することが確実視され、2030年には総額年間20兆円に達すると予想され、それまでの長年の投資を無に帰させ、持続可能な開発に対する深刻な脅威となることが懸念される。災害リスクを認識して事前対応することが持続可能な開発にとって不可欠であるという観点から、地球環境科学分野で推進中のFuture Earth、ならびに政府間協力で進められている地球観測(GEO)との連携の可能性を探り、協力してSDGsの防災目標設定に貢献するための考え方を集約する(防災、環境、地球観測の連携)。

第二に、災害リスクを軽減するためには、地域、国、地方自治体、住民団体、各レベルで科学的成果をもとづく防災対策を社会実装することが不可欠である。しかし、そうした実践は依然として不十分である。科学的成果にもとづく防災対策の実現を目指した具体的な優良事例を示して、各主体の参加を得て議論し、防災対策のあるべき姿を提示する(科学と社会の連携)。

第三に、科学的な防災対策を社会実装するためには、マルチハザードに対する総合的な取り組みの重要性を東日本大震災からの復興のプロセスで認識させられた。ハザードから災害リスクへの変換、さらには災害リスクの認識から意思決定プロセスへの誘導を実現するには、どのような科学的協働が必要なのかについて、その具体的取り組みを紹介して、目指すべき方向性、必要となる共通指標が持つ新たな科学的機能を議論し、HFA2の推進を支える考え方を集約する(分野間連携)。

以上を踏まえ、持続可能な開発を担保するために、政策・計画・プログラムのすべての面で「持続可能な開発と災害」軽減との密接な連携を実現させ、災害リスク軽減を実現する体制・仕組み・人材を社会の各層において確立し、災害マネジメントサイクルのすべての局面において災害リスク軽減につながる新たな防災・減災科学技術の構築へ向けた提言を行う。

## プログラム

1日目 (2015年1月14日、水曜日)

---

12:00-13:30 受付

14:00-15:00 開会式

式辞

大西 隆 / 日本学術会議 会長

マルガレータ・ワルストロム / 国連事務総長特別代表 (防災担当)  
(ビデオレター)

デビッド・ジョンストン / 災害リスク統合研究(IRDR) 科学委員会議長、  
マッセー大学 (ニュージーランド) 災害研究ジョイントセンター  
ディレクター

濱田 純一 / 東京大学 総長

基調講演

「ポスト兵庫行動枠組 (HFA) における科学技術」

韓 昇洙 / 国連水と災害リスク軽減特使、大韓民国元国務総理

「リスク軽減と持続的な発展のための総合的研究」

ゴードン・マックビーン / 国際科学会議(ICSU) 会長、  
ウェスタン・オンタリオ大学 (カナダ) 甚大被害軽減研究所 教授、  
カナダ王立協会 フェロー

(休憩 15:00-15:15)

15:20-17:05 ハイレベルパネル会議

組織委員会報告

大西 隆 / 日本学術会議 会長

ハイレベルパネル

モデレーター:

大西 隆 / 日本学術会議 会長

パネリスト:

アニスル・イスラム・マームード / バングラデシュ人民共和国 水資源省  
水資源担当大臣

デビッド・ジョンストン / 災害リスク統合研究 (IRDR) 科学委員会議長、  
マッセー大学 (ニュージーランド) 災害研究ジョイントセンター  
ディレクター

ビビ・スタプロウ / 国際社会科学協議会 (ISSC) 理事

ジェリー・レンゴアーサ / 国連気象機関 (WMO) 事務局次長

フラビア・スクレゲル / 国連教育科学文化機関 (UNESCO)

自然科学分野局長補佐

ロルフ・アルター / 経済協力開発機構 (OECD) 行政管理・地域開発部門

ディレクター、世界経済フォーラム グローバル・アジェンダ・

カウンシル メンバー

エデ・バスケス / 世界銀行 社会・都市・農村・レジリエンス世界実践

部門 上級ディレクター

ビンドゥ・ロハニ / アジア開発銀行 副総裁 (知識経営と持続可能な開発)

木山 繁 / 独立行政法人 国際協力機構 (JICA) 理事

樋口 清司 / 独立行政法人 宇宙航空研究開発機構 (JAXA) 副理事長

国際宇宙航行連盟 (IAF) 会長

(休憩 17:05-17:20)

#### 17:20-18:00 東日本大震災からの復興に関するセッション

講演者：

五百旗頭 真 / 東日本大震災復興構想会議 元議長、

公立大学法人 熊本県立大学 理事長、

公益財団法人 ひょうご震災記念21世紀研究機構 理事長

「日本学術会議と30学会連携 日本の大震災等の経験を国際的にどう  
活かすか」

米田 雅子 / 東日本大震災の総合対応に関する学協会連絡会、

慶應義塾大学 特任教授

#### 18:30-20:30 懇親会

2日目(2015年1月15日、木曜日)

---

8:00- 受付開始

9:00-10:30 グリーン成長と持続可能な開発に向けた環境および健康活動との協調  
に関するセッション

モデレーター:

小池 俊雄 / 東京大学 大学院工学系研究科 教授、

水災害・リスクマネジメント国際センター(ICHARM) センター長

春日 文子 / 日本学術会議 会長アドバイザー、国立医薬品食品衛生  
研究所 安全情報部 部長

講演者:

*「フューチャーアースとアジアでの重要性」*

安成 哲三 / 総合地球環境学研究所 所長、IGBP, WCRP, DIVERSITES  
連携国内委員会 議長

*「持続可能な開発のための地球観測の調整」*

バーバラ・ライアン / 地球観測に関する政府間会合(GEO) 事務局長

*「災害軽減のための重要戦略としての健康の位置づけ」*

アレックス・ロス / 世界保健機構(WHO) 神戸センター 所長

*「異常気象へのレジリエンス」*

ジョージナ・メース / ロンドン大学 生物多様性と生態系 教授

大英帝国勲章コマンダー・王立協会会員

(休憩 10:30-10:45)

10:45-11:20 ポスター口頭紹介セッション グループA

(メインホールにて一人1分程度でポスターの概要をプレゼンテーション)

11:20-11:30 フォトセッション

(昼食 11:30-12:45)

12:45-13:15 ポスター口頭紹介セッション グループB

(メインホールにて一人1分程度でポスターの概要をプレゼンテーション)

13:15-14:45 科学と社会の協働を目指した防災科学技術の社会実装に関する

セッション

モデレーター：

西川 智 / 独立行政法人 水資源機構 理事

林 春男 / 京都大学 防災研究所 教授

講演者：

「日本における緊急地震速報 科学と社会の包括的協働の成果」

西出 則武 / 気象庁 (JIMA) 長官

「災害リスク軽減の経済学 十分な安全とはどの程度の安全か？」

ウォルター・アマン / 世界リスクフォーラム (GRF ダボス) 創設者、  
総裁、国連国際防災戦略 科学技術諮問グループ

「エチオピアでの災害リスク軽減のためのマイクロ金融の推進」

メグレッサ・ミレッサ / キフィア金融技術社 (エチオピア)

マイクロ保険部門 プログラム・ディレクター

「自然災害軽減のための国際協力」

濱田 政則 / アジア防災センター センター長、早稲田大学 名誉教授

「災害リスク軽減のための超学際教育」

スリカンタ・ヘラート / 国連大学 サステイナビリティ高等研究所

アカデミック・ディレクター

「日本防災プラットフォームのご紹介: 官民連携の試み」

西口 尚宏 / 日本防災プラットフォーム 代表理事

「東南アジア諸国連合での地区事業継続マネジメント (Area BCM) の  
推進: フィリピン首都圏開発局の経験」

コラソン・ジメネズ / フィリピン首都圏開発局 次官

14:45-15:15 ポスター口頭紹介セッション グループC

(メインホールにて一人1分程度でポスターの概要をプレゼンテーション)

(休憩 15:15-15:30)

15:30-17:00 リスクマネジメントに向けた災害リスク軽減に関する学際的研究に

関するセッション

モデレーター：

塚原 健一 / 九州大学 大学院工学研究院 教授

佐竹 健治 / 東京大学 地震研究所 教授

講演者：

*「災害リスク軽減のための学際研究 増大するリスク管理に対する  
アフリカ諸国の視点」*

シュアイブ・ルワサ / マケレレ大学（ウガンダ）准教授、災害リスク統合  
研究（IRDR）

*「気候変動の下での自然災害に対する実践的技術」*

小松 利光 / 世界工学団体連盟 災害リスクマネジメント委員会  
九州大学 客員教授

*「統合災害リスクマネジメントにおける科学技術の新たな可能性」*

李 維森 / 台湾国立防災科学技術センター 事務局長、APEC 緊急事態の  
備え作業部会 共同議長

*「災害リスクマネジメントへの学際的視点：科学と政策、実践とのリンケージ」*

スーザン・カッター / サウスカロライナ大学(米国) ハザードと脆弱性研究所  
教授・所長、災害リスク統合研究（IRDR）科学委員

*「自然災害の被害と損失のデータベース構築の支援 国連開発計画の教訓」*

サニー・ラモス・ジェギロス / 国連開発計画 バンコク地域事務所(タイ)  
減災と復興部門 上級顧問

*「水危機に着目した西・中央アジアにおける自然災害リスクの概観」*

アリ・チャボシアン / UNESCO 都市水管理地域センター センター長、  
イラン科学技術大学 土木工学科、世界早魃イニシアティブ(IDI)事務局  
ディレクター

17:00-18:30 ポスター発表セッション

(ポスター展示会場にて、ポスターの内容を個別に説明)

8:00 受付開始

9:00-11:30 パネルディスカッション：“東京宣言：仙台へ向けで”

モデレーター：

小池 俊雄 / 東京大学 大学院工学系研究科 教授、  
水災害・リスクマネジメント国際センター(ICHARM) センター長

パネリスト：

大西 隆 / 日本学術会議 会長

春日 文子 / 日本学術会議 会長アドバイザー、国立医薬品食品衛生  
研究所 安全情報部 部長

林 春男 / 京都大学 防災研究所 教授

塚原 健一 / 九州大学 大学院工学研究院 教授

ゴードン・マックビーン / 国際科学会議(ICSU) 会長、  
ウェスタン・オンタリオ大学 (カナダ) 甚大被害軽減研究所 教授、  
カナダ王立協会 フェロー

ビビ・スタブロウ / 国際社会科学協議会 (ISSC) 理事

バーバラ・ライアン / 地球観測に関する政府間会合(GEO) 事務局長

ウォルター・アマン / 世界リスクフォーラム (GRF ダボス) 創設者、  
総裁、国連国際防災戦略 科学技術諮問グループ

小西 淳文 / 独立行政法人 国際協力機構 (JICA) 上級審議役

ルディガー・クライン / 災害リスク統合研究 (IRDR) 国際プロジェクト  
事務局 事務局長

(休憩 10:00-10:15)

11:30-11:45 閉会式

挨拶

山谷 えり子 / 内閣府特命担当大臣 (防災)

式辞

春日 文子 / 日本学術会議 会長アドバイザー、  
国立医薬品食品衛生研究所安全情報部 部長



## 組織委員会

### 国際組織委員会

#### 委員長：

- 大西 隆 日本学術会議 会長  
ゴードン・マックビーン 国際科学会議(ICSU) 会長、  
ウェスタン・オンタリオ大学 (カナダ) 甚大被害軽減  
研究所教授 / カナダ王立協会 フェロー  
デビッド・ジョンストン 災害リスク統合研究 (IRDR) 科学委員会議長、  
マッセー大学 (ニュージーランド) 災害研究ジョイント  
センターディレクター  
マルガレータ・ワルストロム 国連事務総長特別代表 (防災担当)

### 国内組織委員会

#### 委員長：

- 小池 俊雄 東京大学 大学院工学系研究科 教授 /  
水災害・リスクマネジメント国際センター(ICHARM)  
センター長  
春日 文子 日本学術会議 会長アドバイザー /  
国立医薬品食品衛生研究所安全情報 部長

#### 委員：

- 三木 浩一 慶応義塾大学 大学院法務研究科 教授  
山川 充夫 帝京大学 経済学部地域経済学科 教授  
花木 啓祐 日本学術会議 副会長/  
東京大学 大学院工学系研究科 教授  
入村 達郎 聖路加国際大学 研究センター 特別顧問 /  
医療イノベーション部 部長  
佐竹 健治 東京大学 地震研究所 教授  
塚原 健一 九州大学 大学院工学研究院 教授  
林 春男 京都大学 防災研究所 教授  
春山 成子 三重大学 大学院生物資源学研究科 教授  
南 裕子 高知県立大学 学長  
米田 雅子 慶應義塾大学 理工学部 特任教授  
天野 雄介 国土交通省 水管理・国土保全局 河川計画課国際室長

石田 中	宇宙航空研究開発機構 (JAXA) 第一衛星利用ミッション本部 宇宙利用国際協力統括事務代理
今村 文彦	東北大学 災害科学国際研究所 所長 (教授)
小野 裕一	東北大学 災害科学国際研究所 教授
川崎 昭如	東京大学 大学院工学系研究科 特任准教授
齋藤 馨	内閣府 政策統括官 (防災担当) 付参事官 (普及啓発・連携担当)
竹内 邦良	ICHARM 顧問
永石 雅史	独立行政法人 国際協力機構 (JICA)地球環境部 参事役
西川 智	独立行政法人 水資源機構 理事
廣木 謙三	国土交通省 水管理・国土保全局 水資源部水資源計画 課長
藤原 広行	防災科学技術研究所 社会防災システム研究領域長